

## 行政常任委員会

令和元年9月3日（火）

午後1時28分開 会

○三鬼（孝）委員長 皆さん、こんにちは。

ただいまより、定刻になりましたので、行政常任委員会を開会いたします。

本日の議題につきましては、尾鷲市役所本庁舎耐震改修工事についてでございます。

審議の前に、市長のほうから御挨拶を。

○加藤市長 委員の皆様には、午前中の本会議に引き続きまして、行政常任委員会を開催していただきまして、まことにありがとうございます。

本日は、先週の8月30日金曜日に開催いたしました尾鷲市役所本庁舎耐震改修事業プロポーザル選定委員会、この選定結果について、総務課より報告させていただきたいと思っています。また、あわせて、今回の本庁舎耐震改修事業の最優秀提案者である竹中工務店・丸昇建設の特定建設工事共同企業体から、耐震改修工法の技術の特徴、あるいは選択の理由及び技術の提案について説明させていただきますので、どうぞよろしくお願いたします。

○三鬼（孝）委員長 ありがとうございます。

本庁舎の耐震改修工事につきましては、本年1月17日に臨時議会で支援業務委託441万5,000円、それと、当初予算におきまして6億円の予算計上し、そのうち4割、2億4,000万が工事費に充てるということでございまして、残りは来年度債務負担行為と3億6,000万というような議会での決議をいたしております。

本日は、先ほど市長が御発言にありましたように、竹中工務店の方5名を参考聴取ということで出席させていただいております。よろしくお願いをいたしたいと思います。

それでは、竹中工務店さん、田中顧問さん以下4名の方の自己紹介をお願いいたします。

○竹中工務店・田中氏 皆様、初めまして。竹中工務店の顧問をやっています田中と申します。よろしくお願いたします。

本日は、市長様初め尾鷲市議会議員の皆様、尾鷲市役所本庁舎耐震改修事業の

弊社の提案をプレゼンテーションする機会をいただきまして、大変光栄に思っております。心から感謝を申し上げます。

弊社は、今回の設計施工のプロポーザルに対しまして、応募要項、現地の調査、ヒアリングをもとに理解を深めまして、弊社の企画力、設計力、技術力を結集しまして、プロポーザルに取り組んでまいりました。

今回の弊社の提案は、耐震補強による安心安全、市民に親しまれます市役所への再生、地域の記憶としての尾鷲らしさをコンセプトに計画してまいりました。特に私は、尾鷲に生まれ、尾鷲に育ちましたので、尾鷲らしさを耐震改修にどのような形で実現するかというこだわりを持って考えてまいりました。

弊社で開発しました木の耐震補強としての尾鷲ヒノキでの活用の推進であります。また、弊社からの提案であります。尾鷲市役所の本庁舎の耐震補強、再生を超えて、未来に向かって本庁舎をよみがえらせますリボーンの提案を今回またさせていただきます。この提案は、本庁舎にとって今何をしなければいけないかというさらなる付加価値の提案であります。

一つ目は、バリアフリーとしてのエレベーターの設置、二つ目は、老朽化が進んでいます外装の改修、三つ目は、市民の皆様がよく使われております玄関、市民ホールの改修、四つ目は、議場の天井の改修の提案であります。これらの提案につきましては、尾鷲市役所の皆様、尾鷲市議会の議員の皆様で、何を採用するかを議論していただきまして決めていただければ幸いであるというふうに思っております。

これから各担当者から詳しい説明をさせていただきますので、よろしくお願い申し上げます。

○三鬼（孝）委員長 残り4名の方、自己紹介だけ。

○竹中工務店・大崎氏 設計を担当しております、竹中工務店、大崎と申します。よろしくお願いいたします。

○竹中工務店・安藤氏 工事計画を担当しております、竹中工務店、安藤です。よろしくお願い致します。

○竹中工務店・横並氏 構造設計を担当しております、竹中工務店、横並と申します。よろしくお願い致します。

○竹中工務店・相川氏 名古屋支店の支店長席で専門役を承っております相川と申します。よろしくお願い致します。

○竹中工務店・水谷氏 営業を担当しております、竹中工務店の三重営業所の水谷と申します。よろしくお願い致します。

○三鬼（和）委員　　ありがとうございました。

それで、総務課長のほうから説明を。

○下村総務課長　　それでは、先月30日に開催されました尾鷲市役所本庁舎耐震改修事業プロポーザル選定委員会の選定結果について御報告いたします。

本庁舎の耐震改修につきましては、平成29年度の耐震診断の結果を受け、耐震改修工事が可能であることや本市の財政状況を踏まえ、設計及び施工に係る一括の技術提案を求めるプロポーザル方式を採用したところであります。

プロポーザルの概要といたしましては、本庁舎耐震改修事業に係る実施設計業務及び耐震改修工事業務並びに工事管理業務で、契約期間は令和3年3月15日、事業費の上限額は6億円とし、本年5月14日に公告し、三重大学工学部長を初め有識者5名から成る選定委員により、6月の1次審査を経て、先週30日に2次審査を実施しました。

2次審査では、会社概要、工事实績、施設規模、自社設計から成る実績評価が31点、配置予定技術者の資格、実務経験、類似業務実績から成る実施設計業務の実施体制評価及び施工の実施体制評価が各12点、プロポーザル参加に当たってのコンセプトが35点、耐震改修工法、工事施工中における配慮、工事施工後の影響など、技術提案が310点、提案金額の評価が50点の合計450点満点とし、最低標準点238点を満たす者の中で最高点を得た者を最優秀提案者とし、請負候補者とするもので、審査の結果といたしましては、評価得点395.9点で、最優秀提案者である竹中工務店・丸昇建設特定建設工事共同企業体を請負候補者といたしました。

また、選定委員から附帯条件にするほどの意見ではないが、施工工事が近隣への騒音、粉じんへの対応に十分気を配るように、I s値はクリアしているものの、X方向のようにY方向も余裕が欲しい、居ながら工法となるため、工期のおくれが生じた場合に備えて調整日程配分は市と十分協議するように、外壁の劣化については心配されるが、耐久性のためのメンテナンスについても十分協議が必要と思われる等の意見がありました。

事務局としては、プロポーザルの中で、木圧着ブレースが鉄骨ブレースより強度的に劣る内容であったが、耐震補強の強度としてはI s値をクリアし、問題がないとの提案であり、木製エントランスブロック耐震壁は世界初との提案については委員の関心も高く、全体の提案としても否定的な意見はありませんでした。

以上が選定委員会での結果報告となります。

○三鬼（孝）委員長　　ありがとうございます。

ただいま総務課長のほうから、尾鷲市役所本庁舎耐震改修工事プロポーザル結果の説明がありましたけれども、この件について、何か御指摘がありましたら御発言をお願いします。

○奥田委員　　これ、満点が450ですか、全部足すと。それで、1個だけ、細かい話で申しわけないですけど、最初の実績評価、これは満点が31点ということなんですよね。下を足すと、10、10、7、4.8を足すと、31.8になるんですけど、0.8オーバーするその理由だけ教えてください。

○下村総務課長　　会社実績等が得点を上回る実績があったという評価になっております。詳細は。

○高浜総務課長補佐兼係長　　実績評価の中に加算という項目がありましたので、満点よりもふえるということがあるということです。

○奥田委員　　そうすると、これというのは450満点やけど、450点まで最高を超えるということもあるんですか。

○高浜総務課長補佐兼係長　　もし全て満点でしたら、超える可能性もあったということですよ。

○仲委員　　各評価、高い得点ということで見ておるんですけど、ただ、実施設計業務の実施体制評価は12点中9点に、施工の実施体制評価は12点中7点ということは、憶測ですけど、類似業務実績が点数が低いということは、類似業務が少なかったということの理解でよろしいですか。

○高浜総務課長補佐兼係長　　類似業務に係る公共施設の類似業務が少なかったということで、このような評価になっております。

○仲委員　　わかりました。

○野田委員　　技術提案のところの310点のところでは……。

○三鬼（孝）委員長　　それは待ってくださいよ。今の結果に載っておるの。

○野田委員　　耐震改修工法が73.5というと、高いのか低いのかということからはわからないんですけども、どのような評価として捉えたらいいんですか。

○下村総務課長　　点数のとおり高評価、得点自体が全体の88%ということで、評価は高い評価を得ているものと。

○三鬼（孝）委員長　　他になれば、これからプロポーザルを受注いたしました竹中工務店・丸昇建設特定建設工事共同事業体であります竹中工務店さんのほうから技術提案書等について御説明をしていただきますので、よろしくお願ひします。

○竹中工務店・大崎氏 では、竹中工務店の設計、大崎より、まず説明させていただきます。

お手元のアイパッドには、今、技術提案書の表紙が映っているかと思いますが、少しめくっていただいて、右下1ページ目から説明させていただきます。

それに先立って、本日は、入札要綱に従った提案書、今映っている本提案書、それとオプション提案書、この二つについて説明させていただきます。

では、最初のページです。

コンセプトのページになってございます。

上段ですが、我々のコンセプトは、尾鷲市の思いを3本の柱として理解し、最適な提案を行っています。安心安全、再生、尾鷲らしさ、この三つ、3本の柱をがっちりかみ合わせた提案をしたいというのが当社の思いです。

安心安全としましては、高い技術力に基づいた耐震補強計画によるI s値0.75の実現、再生としましては、庁舎再生のモデルケースを目指した地域の魅力を広く発信できる再生計画を御提案したいと、尾鷲らしさとしましては、尾鷲ヒノキを積極的に活用した見せる耐震補強工法を採用したい、こういった提案をしてまいりました。

1ページの下段です。

補強工法につきましては、居ながらという工事に適した合理性、経済性から、耐震補強を採用しています。下に耐震と制震と免震という三つの案を比較してございますが、当社としましては、工法の種類が多く、建物の条件に合わせて最適な補強を選択でき、居ながらの工法も多数ある耐震補強を採用しています。建物の形状とか構成とか、半分地下があるという尾鷲市役所の状況から、制震とか免震は少し不向きな面があるということにあわせて、コストも予算内におさめることが難しいということで、この2案は不採用としています。

次、2ページ目を御確認ください。

こちらに、先ほど工法がたくさんあると申し上げましたが、今回採用した主たる七つの工法が説明してあります。我々は、高い技術力に基づく豊富な耐震補強工法を適材適所に採用します。

耐震市松といいますのは、合成プレートと開口部が市松になっている、配された耐震補強で、デザイン性も非常に高いと、斜めの材が出ないという特徴をあわせ持っています。

その隣の鉄骨ブレースは開口率が非常に高く、採光する面、光をとるに大変適し

ていると、ある程度分割が可能だという施工性への配慮も検討できます。

エストンブロック耐震壁、こちらは写真の下のほうにございますが、ちょっと小さくて見づらいかもしれませんが、チョウチョウ型の一人で手に持って運べるぐらいの大きさのブロックを積んでいって耐震補強にするという壁でございます。人力運搬可能で、狭い場所とか奥まった場所、施工に際しても騒音、振動も大変小さいので、居ながらに適した工法です。

R C耐震壁は、コストが安い、経済性が非常に高い工法です。

さらに今回は、下段の三つの要素になりますが、1階において、市民エリアにおいてはヒノキを活用した耐震補強工法を採用しています。木板組み込み耐震市松壁、こちらは合成プレートを鉄と尾鷲のハイブリッドで実現してございます。木圧着ブレースは、斜めのブレース材を尾鷲ヒノキを活用してございます。木製エストンブロック耐震壁は、チョウチョウ型ブロックに尾鷲ヒノキを活用しています。実現すれば、世界初の工法でございます。竹中の技研にて実験は重ねており、実現に向けて問題はなく、採用できる工法です。

我々は、これらの工法を適材適所に採用するということを、次ページで、各階ごとに説明させていただきます。

3ページ目、御確認ください。

こちらは、1階平面図が中央にございます。フロアのどこに、どのような工法を、どんな理由で採用しているかを説明します。

平面上に記号がいっぱい赤く太文字でついているかと思いますが、上段に書いてある凡例に従った耐震工法がその場所に採用してあるという見方をしてください。

順番があちこち行きますが、まず左下、北側、正面側、玄関外部周りにおきましては、木板組み込み耐震市松壁を採用しています。尾鷲の海をモチーフにした波の表現の木板組み込み耐震壁を採用し、市庁舎の新たな顔として市民をお迎えします。

2番目、その上段、左手、中段ですね。東面には、こちらも交差点からすぐ進入性が高いところですので、景観に配慮して耐震市松壁を採用しています。

三つ目、右下を御確認ください。

玄関の両サイドの壁です。木製エストンブロック耐震壁を採用して、木の温かみのあるインテリアをつくってございます。

右の中段、西面におきましては、エストンブロック耐震壁を採用しています。ここはバルコニーが狭く、奥まったところなので、小運搬に適したエストンブロックを採用しています。

5 番目、右の上段です。

南面におきましては、鉄骨ブレースを採用しています。こちらは重機、工事用の車両が近づきにくいという立地上の条件がありますので、ある程度分割可能な鉄骨ブレースを採用しています。また、景観にも配慮するという視点から、ブレースを部屋内側につける工法を採用しています。

6 番目、左の上段です。

執務エリアにおきまして、木圧着ブレースを採用しています。木圧着ブレースを採用して、温かみのあるインテリアを演出しています。このブレースの向きが交互に配置されるということですが、そうすることで、南から北側というんですか、引っ張り側、圧縮側、両方にきくバランスのよい耐震補強としています。ブレースというのは、片側が上がっていきますので、そちら側ではその下部に動線が確保できるので、職員動線を市民サービス課の中においても完全に分断するものではありません。

さらに、紙面上の中央下段に緑色の文字で書いてありますが、1 階におきましては、市民もたくさん訪れるということから尾鷲ヒノキを積極的に採用し、見せる耐震補強を採用しています。ここで尾鷲らしさがアピールできたらいいなと考えています。

次、4 ページ目を説明させていただきます。

こちらは同様に、2 階、3 階、B 1 階の説明になります。

基本的には1 階と同様の考え方でして、各階ともに北面は景観に配慮して耐震市松壁を採用。南面は、施工性の条件もあり、ブレースを採用。東西面につきましては R C の壁で、特に B 1、経済性への配慮も行っております。また、部屋内に出てくる耐震要素は、エストンブロック耐震壁を主として採用しています。居ながらですので、静かに、余り迷惑をかけずに工事できるというところがメリットです。

右側の上段、目標耐震性能確保につきましては、耐震指標  $I_s$  値の 1.25 倍以上を確保しています。新築で、現行法規で建てる建物が  $I_s$  値 0.6、ここの 1.25 倍、0.75 という数値を目標としています。

中段に表が二つありますが、本館の耐震診断及び補強案の検討結果を示しています。X 方向、Y 方向、東西方向、南北方向ですね、ともにもともと低かった耐震の数値が、赤線の 0.75 を上回ってきていることがわかります。補強計画によって改善できていることを示しています。

下段、(3) 耐震判定委員会につきましては、こういう委員会を通じてきちっと

補強ができていますよねというお墨つきをもらおうということなのですが、指摘対応時間をしっかりと確保した設計スケジュールとしていますと。詳細は割愛します。

○竹中工務店・安藤氏　　続きまして、工事施工中における配慮について説明をいたします。

右下のページ番号、5ページをごらんください。

部署移動やレイアウト変更、動線計画等に対する来庁者や市職員の方への負担への配慮について御説明をします。

今回、段階的に工事を進めることで、来庁者や市職員の方の負担を最小限に抑えた工事計画を計画しております。右上の図1は、各階の工事の概略工程と、その下に、部署移動ということで紫色のバーがありますけれども、こちらに、工事に当たって部署の移動が行われる部門及びその期間が示されております。

来庁者や市職員の方の利用が最も多く、工事量も多い1階の耐震改修工事につきましては、工事に伴う負担を最小限とするために、1階の工事につきましてはステップを大きく四つに分けて段階的に行う計画としております。また、部署移動につきましても、部署移動に伴う負担を最小限に抑えるために、移動を大きく2回に分けてずらす計画としてございます。

また、右上の工程表のピンクの部分耐震工事として、2020年の4月1日の着工から2020年度末の3月15日までの竣工となっております。

水色の部分が各階のトイレ改修工事になります。

中段に横に四つ並びました図は、1階の工事エリアと利用者の動線について、ステップ1から4まで図解したものになります。特に一番右側のステップ4につきましては、市民サービス課の方々がおられるエリアが工事の対象となりますので、市民サービス課は市民の方の利用が最も多いということから、利便性を確保するために、市民サービス課の方が税務課及び福祉保健課のほうに移動いたしまして、そのかわり、税務課及び福祉保健課の方が新館のほうに部署移動されるという計画をしております。なお、これらの部署の移動時期や対象範囲につきましては、協議の上、決定するというように提案をさせていただいております。

一番下に四つ並んだ図につきましては、各階の工事エリアということで、左からB1階、1階、2階、3階のそれぞれの工事範囲を示しております。ピンクで塗られた部分が工事として必要になる範囲を示してございます。また、青く塗られた部分につきましては、各階の既存のトイレ改修工事になりまして、これらの工事につきましては、各階の耐震改修工事が終わり次第、トイレの改修工事に入るという計



画としております。

○竹中工務店・大崎氏 右下6ページ目の工事施工中の配慮につきましては、施工会社として十分に配慮を行うということが細かく書いてありますが、一旦割愛させていただこうと思っています。質疑があれば、また回答させていただきます。

7ページ目、工事施工後の影響について説明します。

左上、上段、執務スペースへの影響と来庁者への影響の主たるものをピックアップしています。

執務エリアにつきましては、広さはおおむね現状維持です。1階執務エリアは、先ほども申しましたようにブレースが設置されますが、完全に分断されるものではないということを申し伝えておきます。夜間受付部の耐震補強計画があり、それに伴って少しプラン変更しますので、外部窓口を活用した夜間受付業務を想定した提案となっています。

1階執務エリアの南面の補強箇所は、ブレースを採用することで十分な採光が維持できている計画です。搬入用の出入り口は現状の必要箇所を維持します。新館や別館等との連絡も現状どおりキープできて、使い勝手についてはおおむね変わりなく、問題なく使えるかなと思っています。

来庁者につきましては、駐車場、駐輪場も現有台数を維持します。動線、出入口も変わりありません。

1階のカウンターも現状維持できますので、窓口におけるサービスも現状どおり影響ありません。

便所はリニューアルされますので、使い勝手や清潔感が改善します。

左の下、既存建物デザインの周辺環境との調和です。現状の水平ラインを強調したデザインと調和した外観とします。

1階エントランス周りの耐震補強には、尾鷲ヒノキを積極的に活用することで、耐震性の向上と尾鷲らしいデザインを両立します。斜め材が見えない補強計画とし、現状の水平ラインを強調したデザインを維持することで、景観への配慮としています。

現状はバルコニーに室外機がたくさんぶら下がっているという状況にございますが、外からの補強をするときには一旦外す必要がございます。なので、それを復旧する際には、バルコニーの床置きタイプに復旧することで、外観もすっきりしたものにしたいと考えています。

右側上段、地域の特性や風土について、尾鷲ヒノキを積極的に活用すると。繰り

返しになるパースが出てきていますが、やはり竣工後、訪れた市民からも単なる耐震補強ではなくて、尾鷲らしい市役所に生まれ変わったねと言ってもらえるようなことになればいいなと思っております。

右側の下段、オプション提案です。

こちらにつきましては、もう一冊の別冊提案書のほうで詳細に説明させていただきます。

一旦、本提案書の内容については、以上とさせていただきます。

○三鬼（孝）委員長　　ただいま耐震改修工法の技術提案書等の説明がございました。この件につきまして、何か御質疑がございましたら御発言願います。

○三鬼（和）委員　　1点、尾鷲らしさというところでお伺いしたいんですけど、本市におきましても、尾鷲小学校であるとか熊野古道センター、それから夢古道おわせ等々、尾鷲ヒノキをふんだんに使えということで、外壁も使ったんですけど、大体5年ぐらいいかびが生えてきたりとか変色したりということで、後で改修というのか、色を塗ったりということが全て起きているような状態なんですね。

御社が今回提案している部分については、北側にしてでも東側にしてでも、雨が多いところですので、素材を生かすというのでいくと、そういった問題も出てくるのであろうかと思うんですけど、そういったところの対策というんですか、落ちついたヒノキの変色だったらいいんですけど、かびであるとか、雨に打たれたりとすることによって、そういったことが早く出てきてしまえば、図面上はいいんですけど、現実、そういった問題は経験しておりますので、その辺はどうなんでしょうか。

○竹中工務店・大崎氏　　御指摘のとおり、外部にも、正面だけです、1階のところなんですけど、採用してございます。ただ、設置する場所は大きなひさし、2メートルぐらいひさしが上にかかっているんですね。その下にあるので、やはりじかの外壁のような直接雨がかりではなく、本当の横殴りの雨のときはかかるかもしれませんが、普通に外壁に使うものとはやっぱり状況が違うと思います。

それと、波型のモチーフのデザインとするというふうに書きましたが、あれも結構水の切れをよくするような配慮もあわせて考慮した形状になっていまして、長くというか、平場にたまった水にずっと木がつかっちゃうというようなことはないというように配慮も踏まえて採用しているつもりです。

○三鬼（和）委員　　私、素人ですのであれなんですけど、尾鷲なんかでも、古民家というんですか、入母屋づくりとか、そういったところに関しては壁面というのか、それは反対に油気の多いような杉を使ったりしておって、ヒノキはできるだけ

内部が多いということがよく仕事が終わってから理解するという事になって、雨が当たらなくてもヒノキのほうに変色するというか、日が当たるところと当たらないところとの変色の仕方とかというのは、油が少ない木に比べるとヒノキは早くそういったことになると思うんですけど、そういった危惧というのはどうなんですか。

○竹中工務店・田中氏　当然ヒノキをそのまま素地で使うということは、我々は考えてはおりません。今回の耐震壁、波型のところもヒノキの強度がやっぱり強いものですから、杉よりもはるかに強いということと、今回、雨がかりについては、ヒノキに合ったキシラデコールという外部用の塗装があるんですね。外部についてはそれを塗ろうかというふうに考えております。素地のまま使いますとどうしても腐ったり劣化しますので、そこまで我々は考えております。

○野田委員　今回、耐震補強は可能ということで実施する方向に行っているんですけども、基本的なところで教えていただきたいんですけども、一般的にコンクリート寿命は60年と言われる中で、今回の築後58年たっている中で、素人の委員においては、コンクリート寿命と耐震補強との兼ね合いがどのような対応をすればいいのかとか、コンクリートが落ちてしまって耐震補強をしても意味がなくなるといふような気持ちがありまして、そこら辺の補強との兼ね合いをどのようにされるのかということをお聞きしたいんですが。

○竹中工務店・横並氏　それにつきましては、私のほうから説明させていただきたいと思います。構造の横並です。

先ほど一般的にコンクリートの建物の寿命は60年というような、一般的な御認識みたいなのがあろうかと思えます。これにつきましては、恐らく税金関係の減価償却の、いわゆるそういう寿命というよりは、耐用年数的な形での評価が何となく一般的に広まっているのかなというふうには思っております。

一つ、学会でもこういう余寿命とか、建物としての残った寿命というのを評価する指標というのはなかなかないんですが、一つ参考になる例としましては、名古屋市のほうでも名古屋市の建物で築40年以上の建物をやはりリニューアルして使っていくべきか、壊していくべきかというのをジャッジしていく中でいろいろ調査しておりまして、大きく20年未満、あるいは20年から40年、40年以上残りの寿命があると、そういう三つのカテゴリーに分ける作業というのをされております。これは平成24年度から名古屋市ではされていて、これ、具体的にはコンクリートの中性化の調査及びコンクリートの中にあります鉄筋のさび状況、これらを調査して建物の余寿命というのを判定しておるものです。

その結果を見ますと、平成30年現在で、1,736件の調査をした結果、それで、20年未満、あと20年はもたないよというふうな建物はたったの4件で0.2%になっておりまして、ほぼほぼ6割が20年以上、4割は40年以上というふうな評価をされております。ですので、名古屋市としても、一般的に言われる耐用年数60年から65年と言われているよりも随分長い寿命があるんだぞというふうな、新たな認識を名古屋市のほうでもされていると。

ひいて、こちらの建物のことに関して言いますと、先ほど言われましたように、築としては57年、58年というふうになっております。しかしながら、我々も既にやられていますコンクリートのコア抜き調査で中性化の調査の結果を見ますと、それほど悪いものではないと。もう一つ、現地を調査させていただいたときにも、それほど外観的にも悪い建物ではない、年数の割に悪くはないというところから判断しますと、先ほどのデータ、それから我々の外観の調査等を踏まえまして、おおむね20年以上ないしは40年以上ぐらいの余寿命があるんじゃないかというふうな判断はできるのではないかと考えています。

○野田委員　もう一つですけれども、前回の委員会報告の中で、総務課長のほうからトイレのバリアフリーというか、段差の解消をしていきたいというようなことを言われたんですけれども、今回、この中の図面上はそういうところは解消できるんですか。

○竹中工務店・田中氏　トイレの改修が今回の耐震の工事に入っていますので、新たに新しい仕上げとかそういうのをやりますので、基本的には段差なしのバリアフリーでやりたいというふうに考えております。

○三鬼（孝）委員長　他に。

○楠委員　ちょっとお聞きしたいんですけど、今回、ブレースを使っているのと耐震壁を使っているんですけど、実質、今の建物だと耐震壁はないので、構造的な問題があるのではないかとはい思うんですけど、皆さんの提案の中ではほとんど中はブレースで、外側に少し耐震壁を設けているということなんですけど、こういうバランスで大丈夫なんじゃないかな。

○竹中工務店・横並氏　それにつきましては、基本的に建物が層間変形角といいまして、250分の1変形したときにどれぐらいの耐力を持っているのかというのを、壁であってもブレースであっても、そういった耐力でもって耐震性を満足するかどうかという判断をしておりますので、パターンが2パターンあったりもしますが、おのおのの耐力の合算でもって評価しても問題はないというふうになっていま

す。

- 楠委員　　もう一点、木の圧着ブレースなんですけど、またこの工法というより材料そのものは最近のものであって、技術的なところはせん断力だとか、曲げには強いと思うんですけど、尾鷲市のように蒸し暑いところではかびによる影響で劣化していくというようなことも考えられるのではないかと思うんですけど、その辺はどうでしょうか。
- 竹中工務店・横並氏　　この木ブレースは、今、材質としてはいわゆる集成材を使います。品質的には一定になっているという意識と、それから、これは完全に室内で使いますので、そのあたりは特段かび等の心配はないんじゃないかというふうには判断しております。
- 野田委員　　先ほど木製エストンブロックというか、組み込みと言われたんや。何かCLT方式というか工法でやるとかということ聞いたと思ったんですけども、その点、どうなんですか。
- 竹中工務店・横並氏　　この木製エストンブロックというのは、もともとCLTという木のパネルをチョウチョウ型にカットしますので、材質的にはCLT、要するに板をクロスで張って行って、厚みのある板にしたものを使っていきます。  
今回、それを利用して少し表面に凹凸をつけるような形で、尾鷲の海をイメージした表情をつけていこうというふうにしておりますので、そういう意味では、もともとの材質はCLTになっています。
- 三鬼（和）委員　　もう一点、単純なことなんですけど、屋内においても耐震構造にするということで、この建物が先ほどから出ていますように五十七、八年ほどということは、電気系統なんかも、新しくしたところもあろうかと思うんですけど、古くなっておるといことで、耐震で屋内でも壁をつくったりとかそうすることによって、こういったものの補修というんですか、こういうことが出てきたときには大丈夫なんですか、耐震してしまった後に古い配線とか、そういう問題というのは。そういうのは工事をしながらもチェックはしていただけるのか、今回、具体的にはこのことについては触れられていないんですけど、どうなんですか。
- 竹中工務店・横並氏　　基本的に、役所に限らず、どこの耐震補強もそうなんですけど、どうしても補強する部分にそういう電気配線等が埋まっているケースがありますので、基本的に既存の躯体に何らかの所作、アンカーを打ったりとか、そういったことをする際には、必ずレーダーで調査をします。ですので、中に埋まっているものが万が一あったとしても、それを傷つけないようにする。見えているもの、

もう既にわかっているものについては、移設をした後に今回の耐震補強部材を取りつけるという形にしております。

当然のことながら、今回部材配置をするときにも、何度か市庁舎に足を運んで邪魔になるものはよけるという予算も中に組み込んでおります。もっと言うと、新たにしなければいけない部分については、ある程度予算も見込みながらやるという形にしておりますので、なるべく既存の電気系統のものがついていないところに部材を配置するというような配慮もしております。

○三鬼（和）委員　　もう一点、おたく様は総合的な会社ということでお伺いしますと、五十数年たっておるそういう電気配線であるとかそういったものについては、今回耐震する中で取りかえなり何なりということは、そういった調査の中でどうですか。入っていないんですか、入っていないといけないであれなんですけど。

○竹中工務店・相川氏　　やはり建物が57年経過しているということは、今御指摘のように、やはり電気の配線に限らず給排水、そういった設備機器等もひよっとしたら老朽化している可能性もあります。ただ、今回の手前どもの提案は、耐震改修というところに特化した提案なものですから、ただ、とは言いつつ、実際、この設計施工、設計の前には調査ということもさせていただきながら、建物がどのような状態になっているかということをしちっと顕在化させて、その上で協議の上、これはどうしたらいいかというところは目線合わせをしていく話かなというふうに思っております。

○仲委員　　先ほどのお話の続きになると思うんですけど、電気工事にしても給排水工事にしても、調査の結果、全面的に改修という場合が考えられるんですね。そういう場合はオプションになるんですか。

○竹中工務店・相川氏　　一応リスク分担ということで、尾鷲市さんのほうともどういったことが現象として発生した場合は協議の上これはどうだということを議論していこうという今は仕組みになっておりますから、そういったことは可能性としては当然出てくるものですから、一つ一つ協議をしながら進めていくということになると思います。

○仲委員　　先ほどの説明で、トイレ改修が全面的にやるという中で、必ず給排水が出てくると思うんですわ。そういう部分では、電気も給排水も別途という感覚でよろしいですか。

○竹中工務店・田中氏　　今回はトイレの中の器具とか、そういうものは新しいものにしますが、メインの排水管とかそういうものは、今回は工事の中には入って

おりません。

○上岡副委員長　　施工中なんですけれども、やはり市民の皆さんとかが来庁されるし、電話等も鳴りますので、騒音をどのように抑えてもらえるのか、また、古い建物ですので、ほこりもかなり立つ可能性がありますので、どういうふうに抑えていただけるのか、その辺、御説明をお願いしたいんですけれども。

○竹中工務店・安藤氏　　騒音等とかにつきましては、まず、室内の工事につきましては、仮間仕切りとあって、一回仮設で工事用の壁をつくります。その壁の中で工事を行うということで、ほこりとかが執務空間に行ってしまうということはまずないようにしています。

あと、騒音のほうにつきましては、まず、アンカー工事とか、はつり工事みたいにコンクリートをはつったりするような大きな音の出る作業というのは、これは土日とかお休みの日に作業するというので、執務に影響のないような音が出るぐらいのものは当然平日にやるんですけれども、余りにも、電話の音であるとかそういうものでも、大きな音が出るものは土日にやるという配慮をしています。

○上岡副委員長　　今回は多分構造部分の耐震が主だと思うんですけれども、今よく言われているのが、非構造部分の耐震化をしないといけないというふうに言われています。その部分に関しては今回どのぐらいできているのか、御説明をお願いしたいんですけれども。

○竹中工務店・大崎氏　　まず、今回の提案書に含まれているのは、純粋な応募要項の課題に、耐震補強だということに解決した内容になっています。

ただ、本日もオプション提案とさせていただく予定ですが、議場の天井ですとか、要綱の中にも報告書が入っていましたが、木下地の天井なんですね。ああいうのはやっぱり取りかえたほうがよりよいのではないかという意味で、オプション提案として、天井の更新を提案させていただいております。同様のことがほかのところにも言えるかもしれませんが、そこは今後協議して進めさせていただきたいと考えております。

○三鬼（孝）委員長　　他に。

よろしい。

○竹中工務店・田中氏　　次に、オプション提案の説明をさせていただきたいと思っております。

○竹中工務店・大崎氏　　では、オプション提案の説明をさせていただきます。

今、表紙が映っているかと思いますが、1ページへめくってください。

右下の1ページのところに、オプション提案とあります。耐震補強以外の課題も解決し、総合的な庁舎再生を目指したオプション提案という位置づけです。

築57年、58年という市庁舎ですので、耐震以外にも課題を抱えていると認識しています。優先度の高い課題をオプションメニューとして当社なりに判断して取り上げて、解決案を提案します。耐震補強とあわせて付加価値の向上を図り、よりよい市庁舎への再生を目指したいなという考えです。

二つ目の四角、耐震補強工事とオプション工事を同時に施工するメリットとして、少し語らせていただきます。

耐震補強工事とオプション工事を同時に施工することで、トータル工期が短縮が図れます。市民の負担の軽減にも貢献できます。加えて、仮設工事などを兼用することで、ローコストなオプション提案の実現に寄与しますと。やはり一旦耐震補強を終えて、その次にオプションということをする、やっぱり少し割高になるし、工期も、当然ですけど、長くなってしまふ、市民への負担も大きくなるというふうに考えています。

オプションメニュー一覧として、その下に1から7までリストアップさせていただいております。これを順次説明させていただきますが、それぞれのメニューは独立していますので、また役所のほうでも御判断いただいて、優先順位の高い項目を抜き取って選択して実施することが可能です。

下に少し米印で注記がありますが、先ほどの質疑応答の中でもありましたが、当社がリストアップした以外の課題も確かに内在しているかもしれません。そういったことに対しても当社としてはまた協議させていただければ、解決に向けた御提案をさせていただく覚悟です。

とはいえ、工事工程及び工事エリア、利用者動線につきましては、本提案だけのものとはまたオプションを含めたときには考え方が変わってきますので、もしオプションが決定しましたら、それに合わせてもう一度調整を図りたいと思っております。金額もついておりますが、耐震補強工事とオプション工事を同時に施工する前提の金額となっておりますので、御理解のほどをお願いいたします。

右下、2ページ目、オプションメニュー1番、身障者対応エレベーターを設置し、バリアフリーの向上を図ります。11人乗りの身障者対応のエレベーターを追加します。停止階は1階、2階、3階です。B1階はエレベーターピットになるので、着床しません。当然、床に穴をあけたりという取り合い工事も含まれた金額になっています。設置場所は、北側の二つの階段の間ですね。図面に描いてあるところに



設置予定です。1階の執務エリアのプランなどを考慮しても、この位置がベストかなと思っております。

次のページ、オプションメニュー2番、老朽化に伴う外壁タイルの剥落防止を兼ねて、外観のリフレッシュを図ります。

バルコニーの手すり壁の外側、こちらのメニューに2-1、2-2、2-3と3案ありますが、2-1は、調査の上、タイルに浮きがある、はがれやすそうだなという範囲を調査して、その範囲のタイルを張りかえるという提案です。なので、2-1は、剥落防止対策という意味で提案しています。外観がきれいになるという美観的な意味では、そこまで含まれておりません。

2-2は、全面ピンネット工法で塗装仕上げとありますが、現状のタイル張りの上から専用のネットを全面に張りまして、タイルの剥落防止をします。その上から下地をもう一度つくり、塗装で仕上げるということで、こちらはタイルの剥落防止と美観上の改善も図る提案です。

2-3、パネルカバー工法、下のパースとか図面は、2-3をベースに作図しておりますが、外壁のバルコニー壁のところにアルミパネルを全面にカバーします。そうすることで、タイルの剥落防止と、外観上も金属パネルによりシャープな外観を取り戻すという提案になっています。

2-1、2-2、2-3、共通ですが、バルコニーの内壁等の塗装更新も含んだ提案でございます。中段、写真にビフォーアフターのように比較してありますが、左のように老朽化が激しいので、リフレッシュすることで安全とデザイン性の向上、両立されてはどうかかなと思っております。

次のページ、オプションメニューの3番、バルコニーに露出する設備機器を整理し、外観のすっきり化を図りますと。こちらは、現状、室外機がたくさん、先ほども言いましたけど、ぶら下がっています。あと、北面に便所の換気ダクトというのが3階の窓から飛び出て屋上に、外部に露出していると思います。そこを改善しようという提案です。

図面の赤の四角で囲ってある範囲は、本提案の中でバルコニーの床に置くという範囲です。オプションとしての提案は、それ以外の青の四角の範囲です。南面を中心として、東西面の2階・3階部分、こちらもバルコニーをすっきりさせて、要するに全周すっきりした外観にしようという提案です。便所の換気ダクトにつきましては、4階の屋上物置のところにダクトを立ち上げて、見えないところで便所の換気をしようという提案です。

オプションメニューの4番、天井裏の劣化補修と天井の全面更新により、議場天井の安全性と意匠性の向上を図りますという提案です。

下の写真が入札資料からの抜粋でして、天井が木下地であることがわかります。このあたりを受けての提案となっています。既存天井を一旦全て撤去して、天井裏の鉄骨とかRC取り合いの、報告にもありますように、多少劣化も見られるということなのでその補修を行いつつ、新規に天井を組みます。LGS下地というのはスチール系の下地、木下地ではなくという。そこに天井を新しくつくります。同時に、照明もLED照明にて更新を図るという御提案です。

現状、漏水も見られるということを知っております。この木下地のところにもぼたぼたとずっと長年水が落ちていることかと想像もできます。このあたりの更新、安全性も含めた改善を図って見たらどうかという御提案です。

オプションメニューのナンバー5、屋根並びにバルコニー床の防水を更新し、漏水リスクの軽減を図ります。議場の屋根からR階、屋上階、また、各階のバルコニー一面の床の全面において防水を更新するという事で、漏水リスクの軽減を図る提案となっております。

オプションメニューの6番、天井木ルーバー、尾鷲ヒノキを新設し、再生する市庁舎にふさわしいインテリアを創出します。パースにあるとおり、通路上にサイン計画と一体となった木ルーバーを設置することで、市民をわかりやすく目的地へ案内しますということで、当然、見た目の美しさとか尾鷲らしさをアピールすることの貢献も狙っていますが、やはりバリアフリーというか、ユニバーサルデザイン的な視点もあわせて、どこに何があるかわかりやすく、サイン計画とあわせた提案をさせていただきたいと考えております。

オプションメニューの7番、玄関ひさしの仕上げを更新し、再生する市庁舎にふさわしいしつらえとします。仮に外装だけがリフレッシュされると、やはり今以上に玄関ひさしが、仮に現状のままだと劣化が目立っちゃうかなという思いもあります。なので、もし外観をやられるのであれば、玄関ひさしもセットで採用というような御判断をいただけるとよいかなと思っております。玄関ひさしにつきましては、幕板部分の更新ですとか、軒天の木、壁部分の木の更新ということを想定した提案となっています。

このオプションメニューが最初に申しあげましたように、安心安全、再生とか、尾鷲らしさという3本の柱をより強固にするような御提案と認識していますので、御検討いただければ幸いです。ありがとうございました。

○三鬼（孝）委員長　　ありがとうございます。

オプションメニュー提案7項目の説明がございましたけれども、この件につきまして、御質疑がございましたら御発言願います。

○奥田委員　　今、オプションメニューということで、本体の工事は約5億9,950万ということではほぼ6億なんですけど、それで、このオプションメニューを拝見させてもらいますと1億9,890万、約2億円ということなんですけど、これはあれですか、耐震補強する工事をする際にこれをやった場合の各値段なんですかね。というのは、今非常に尾鷲市って財政が厳しいものですから、後から追加していくとかというふうになると、やっぱり割高になるのかなという感じがするんですけど、これはやっぱり耐震補強工事をやる際にこれをやればということの値段なんですかね。

○竹中工務店・大崎氏　　御指摘のとおりです。耐震補強をやる時にあわせて一緒にやるとという金額になっています。当然、後から別でということも可能ですが、そのときはこの金額よりもプラスアルファが出ると認識いただけるとありがたいです。

○奥田委員　　この辺、僕も本当に、これは執行部に聞いたほうがええのか、これをやってもらったほうが非常にいいですよ、全部やれたらいいなと僕も思うんですけど、当然、今の財政の状況の中で非常に全部は無理かなという気はしているんですけど、執行部はどう考えているんですか、このオプションメニューの説明を受けて、財源とか、そういうことも含めて。

○加藤市長　　今回、市庁舎の耐震ということで、最低価格の6億円以内というような形で、あくまでもこれはオプションなんですよね。委員おっしゃるように、やりたいですよ。本当に全然見違えるような、これを実現させるということはどこまでできるのかということは私に今は回答はできないんですけど、気持ちの上では、ここまで来るんだったらやりたいなという思いはあります、やりたいです。

だけれども、後の財政状況というのはこれから、また、きょう、市政報告で発表しましたように、5年間の財政見通しがどうなるのか、もう一つは病院の新改革プランをどうするのかという、この辺のところでも今かなり我々進んだ議論をやっているわけなんですけれども、それにプラスアルファ、この分が付加されるという話なんですよね。非常に今どう考えているかといっても、やりたいけど、できるかできないかわからない、恐らくできないほうが大きいんじゃないかなという、今はそう思っています。

しかし、これを本当に全庁一丸となってやろうやというような話になったら、結局、プラスマイナスがありますから、どこから出した分はどこかを減らさなきゃならないという、今、こういう状況です。ですから、それはいつまでに返事したらええのかなという気持ちも私はあるんですけどもね。だから、今はやりたいけど、できるかどうか、できないほうが強いんじゃないかなという、気持ちとしてはそうです。

これをどうするのかということについては、やっぱり協議していきたいと思っています。その中の全部なのか、一部なのかというような話です。

○奥田委員　非常に難しいと、今、市長の答弁を聞いていてもそういう答弁になるのかなという感じもするんですけど、ただ、こういう形でオプションの説明を受けると、それは委員の皆さんも一つでもやれたらいいなと思いますけど、そうすると、市長としてはどうなんですか、議会側で議論して、議会がこれをせえ、あれをせえという話だったらやるということなんですかね。それって議会が責任を持たなアカンということになりますもんね。その辺なんですよ。

だからって、僕も安易なことは言えないなという思いもあるし、してほしいというのものあるんですけど、当初の説明では、6億円の予算が上がったときにも、壁1枚直すお金も入っていないんですよ。できるだけ財政の中でそれを抑えていくんですよという話だったんですけど、今回、かなり御無理を言った部分もあるということなんですけど、5億9,950万ということで、限りなく6億に近い形になるんでしょう。そうなってくると、最初の説明とも違ってきているし。

ですので、そういう意味でのどこまでやるのかというのは、市長の今の答弁はわかりますよ。ただ、今、財政が厳しいということでやらないこともたくさんある中で、SEAモデルなんかでも日本一の釣り桟橋をやるんだとか、そういう話もあって、それも幾らかかるのかわからないし、先ほど話があったように、病院なんかも資金不足が初めて出てきたじゃないですか、30年度、今度決算委員会でも議論になりますけれども、病院経営はどうしていくのかなという問題もありますので。

そういう意味では、これから考えるんだということじゃなくて、市長も早目に早目に決断していかないと、これはやる、これはやらないという。じゃないと、市長の答弁を聞いておると、あれもやります、これもやりますという話でずっと来ているので、きょうはちょっと慎重な意見でしたけど、やりたい気持ちはよくわかるんですけど、そこを早目にきちっと整理していかないと、僕も心配でしょうがないんですよ、僕が心配し過ぎなのかもしれませんが、今の財政を見ておると、

本当にこれ、いつ夕張になってもしょうがないような状況ですから、本当にね。どう、そこまで言ってあれかな。これから議論ということになるんですかね。

○加藤市長　基本的には、私、キックオフというのは、要するに今回の財政5年間の見通しを御説明させていただいて、どれぐらいのマイナスが生じてくるのか、あくまでも見通しですからね。それに病院の話等々も含めて、いろんな課題がある。その課題を解決するために、要するに思い切った改革をやっていかなきゃな、これが方向性なのね。ここの部分についても、要するにできることだと。

私の口ぐせに言っているの、ここがやっぱり砦なんですよね。砦はきちんとやっていきたいと思う気持ちはあるし、ただ、要するにさっきの竹中さんのプレゼンでもあったように、ただ単に補強するだけのものじゃなしに、やはりここで尾鷲を何とかいろんな形の中で売り出そうという、そういうものも非常に参考にはなっているわけなんですよね。

具体的に申し上げますと、私が申し上げられるのは、今、2億円がプラスアルファになると。あと、その財源をどういうふうに持ってくるかということをやったり早急に考えていかなきゃならないと思っています。今度、財源の問題なのね、結局2億円が。だから、これが、こんなところでこういう議論をするのがええのかと、私もはっきり申し上げますけれども、結局、起債で起こせるのかどうかという話の中で、要するにローンを組むというのが何年からかというような話まで、いろんなところの補助金を活用しながら持ってくるというような、そういう計画もしなきゃならない。

だから、要するに口火を切っていただいた奥田委員がやっぱりこうあったらいいわなって、皆さん、そう思いますよね、私もそう思いますよ。だけれども、その財源をどうするのかということについては、もっと執行部としては真剣にやっぱりこれについて深掘りしていかなきゃならないと。本当にできるのかどうかということ。

しかし、おっしゃるように、早急にやっていかなきゃならないと思いますよ。3月までに設計が組まれるんですから、来年の4月から施工に入って1年間でやるんですから。この辺のところを、正直言って、全てにおいて喫緊にやっぱりこういう結論、方向性を見出さなきゃな、これだけじゃなしにほかの面もという思いはあります。

○南委員　今のオプションで財政的な議論に入っていますけれども、それは後にまたいろんな機会があるわけなんですけれども、先ほど2億のオプションの7項目

のオプション提案されたということなんですけれども、これから基本設計、詳細設計に入っていく上において、もしもそのオプションを登用するのであれば、やはりある程度の設計の段階でいつまでいつまでというのは期限があると思うんですわね、これから設計の中へ入っていくときに。最大限どれほどまでに行くなら行くという決断を示す時期というのは、いつ時期が限度としてなるのか、まず、それを先にお聞かせ願いたいと思います。

○下村総務課長 私どもも最初から申し上げておりましたように、この9月定例会中に契約に係る追加議案を上程するつもりでございましたので、当初組みました6億円の補正という形を考えておりました。

ただ、ここでオプションの部分を議論するとなると、今定例会中での……。

○南委員 いやいや、僕の言うておるのは、もしオプションも行くのであれば、いつの時期までに英断せんことには、設計の中へ落として工期までにできるかできないかというところを確認したんですが。

○竹中工務店・田中氏 このオプション提案の中で、特にエレベーターをつけるかつかないか、これはスラブを壊して抜きますので、構造的にかかわってきますので、まずこれをやるかやらないかを決めていただきたいというふうに思います。後で、設計が終わってからエレベーターをつけるということになりますと、力の流れ方をもう一度再検討しなきゃいけませんので、これを決めていただきたいというふうに思います。

○三鬼（孝）委員長 南委員、よろしい。

○南委員 僕は個人的に今はもうユニバーサルデザインというのが必ず必要なので、エレベーターぐらいはせめてオプションの中で、以前から議会の中でも意見が出ておりましたように、ぜひともエレベーターだけは組み込んで進めていただきたいなと考えておるんですけれども、僕はきょう来たときに、すばらしい仕上がりの写真を見て、これが5億9,950万の耐震かなと一瞬思ったんですけれども、そうじゃなかったんですよ。全てのオプションを踏まえた上での提示を出されたということで、初めに説明をしていただきましたかったなというような思いがあるんですけれども、スーパーゼネコンの竹中さんがこのように尾鷲に出向いていただいて、尾鷲らしさを十分に発揮した設計をしていただいたということで、財政的な問題があるんですけど、そういった施工管理に関しては私的には全幅の信頼を置いておりますので、財政的な問題はこれから議会内部で市長と詰めていきたいと考えておりますので、よろしく願いいたしたいと思います。

○野田委員　　ちょっと教えてください。

議場天井の改修、防水更新とありますけれども、これは何か構造的に雨漏りとか何かあってしたほうがいいということですか。

○竹中工務店・大崎氏　　私たちが普通に現地調査するときには気づかなかったんですが、入札要綱に入っていたレポート、この資料がきっかけで提案に至っています。それとあわせて見させてもらったときに雨漏りもあったので、あわせて先ほど説明させていただいたんですが、今、特定天井という建築基準法上でもある程度の規模とかある程度の高さがある天井については、普通の天井よりさらに安全な天井にしましょうねという議論があります、指標があります。その特定天井には該当しないんですけど、近いところもあるので、前向きに更新を図ったらどうかという提案です。

○野田委員　　総務課長のほうにちょっと聞きたいんですけども、オプションメニューのほうは、防災・減災のほうの対象になってくるんですか。

○下村総務課長　　対象にはなりません。

○三鬼（和）委員　　市長、いろいろ考えてとかと言っていましたけど、基本的にはプロポーザルで竹中工務店さんということで決まったわけですから、今、総務課長が言われておったように、予定では今定例会で追加議案として、1億5,000万以上の工事については議会の議決が要ということですから、ただ、オプションもするとか云々決まらなないと基本設計へ入れないというところがありますので、おのずと一月ぐらいの間に決めなくちゃいけないんじゃないかなとは思いますが、そういったことはどうなんですか。

○下村総務課長　　オプションに関しましては、10月中ぐらいで決定すればということになりますので、今定例会へはあくまでも5億9,950万の補正予算と債務負担行為補正ということで行くと。ただ、オプションは追加になりますので、当然、財源が必要になってくるということになると。

○三鬼（和）委員　　予算じゃなくて、あれですか、じゃ、契約は今のプロポーザルの結果で一旦契約はするということですか。そのほかは追加工事みたいな形でやるということですか。このやり方について、詳しく説明してください。

○下村総務課長　　そういうことになります。オプションも幾つかありましたが、先ほど市長からも申し上げたように財源の問題もありますし、有利な起債等が使えるのであればという部分もありますので、その辺は財政課とも協議しながらとなりますが、緊急防災・減災事業債ほど有利な起債というのは多分ございません。そう

いった中で、バリアフリー云々というのは公共施設等適正管理推進事業債というのがあるらしいということだけは聞いていますので、その辺は精査の上、御説明させていただくとともに、どの部分をオプションを取り入れるかということになるかと思いますが、今回この9月定例会で議案提案したいのは、耐震改修工事の5億9,950万の補正と工事請負契約の議案を追加議案として上程したいと考えております。

○三鬼（和）委員　それじゃ、もう一度オプションの部分の契約が間に合うか間に合わんかって、担当が言いましたように10月いっぱい、いつですか、10月いっぱい。

○竹中工務店・大崎氏　本提案書の4ページの右下に、工程が載ってございます。この工程が10月末までに基本的な、耐震補強のですけれども、補強の位置とか補強の方法を合意しましょうというスケジュールなんですけど、やはり躯体に絡むという観点からすると、エレベーターでスラブに穴をあけるといのはやっぱりこのときに同時に決めたいです。それを踏まえた上で詳細設計を行って、耐震補強判定に諮りたいという考えなので、エレベーターに限っては10月末までに。

そのほかのことに關しては、多少調整の余地はあるかもしれませんが、それはどういう契約というか、後から後からということを見せていただけるのか、やっぱり一括でまとめてという御判断をいただいたほうが話がスムーズなのか、そのあたりを加味しながら御決定いただきたいなと思っております。

○三鬼（孝）委員長　野田委員、よろしい。

○野田委員　金額というのは今出ていますけれども、これはこれという形の金額なんですか。3,710万とか。

○竹中工務店・水谷氏　現時点では概算の金額となります。

○野田委員　概算ですか、ありがとうございます。

○楠委員　最初のころに仲委員からもお話があったんですけど、いわゆる電気配線とか、それから、あと、水回りの関係、器具は取りかえるということで、じゃ、配管はどうするんだと言ったときに、ライニング工法できれいになればいいんですけど、経年的に多分そうはいかないだろうと。そうすると、改めてまたコアを抜かなきゃいけないとなると、構造的な問題だとかさまざまな問題が出ると思うんですけど、それも多分オプションにはなってくるということですね。

そうすると、提案していただいたオプションメニューで、先ほどエレベーターにしてもやっぱり優先順位というのがあると思うんですけど、もし皆さんの考え方の



中でわかれば、この七つ、あるいは水回りの配管、電気配線を含めて、どういうものが優先的にやったほうがいいのか、参考の意見をいただければと思います。

○竹中工務店・田中氏　　まず、インフラについては給排水、それと、その配管については、今回全くこれは提案していません。特に外部の空調機の、これは外観にかかわることなので、これはやりましょうという提案をしていますけど内部の、これはインターネットを含めてインフラについては、我々、どこまで、確かに耐震壁とかそういうところを設けるところは把握していますけど、じゃ、全体のそれがどういうふうに老朽化しているとか、それはまだ我々は調査していませんので、もし必要であれば新たなまた提案をさせていただきます。

今、一番最初にやるべきことは、エレベーターをバリアフリーとして、ユニバーサルデザインとして、これをやるのかやらないのかということを決めていただきたいと。これがこれから構造の詳細設計に入ってまいりますので、ほかの外壁の改修とか防水というのはそれぞれ単独でできます。ですから、それは10月じゃなくてもその都度決めていただければいいんですけど、構造に係るところだけは最初に決めていただきたいということです。

○三鬼（孝）委員長　　よろしいですか、高村委員も。

○高村委員　　今までの説明を聞いて、それで、私は最初から言っておる、本当は10億で新築をしてほしかったんですけど、今の話まで総合しますと、やはり耐震をして、それで、エレベーターぐらいはつけていただきたいと思います。

○三鬼（孝）委員長　　それは執行部への提案ですね。

○小川委員　　エレベーターの話が出ましたけど、それはやはりエレベーターがないよりもあったほうが良いとは思いますが、果たして誰が使うのかなというのですね。

（「障害」と呼ぶ者あり）

○小川委員　　障害のある人、3階まで上がってくるようなことも滅多にありませんし。

（「滅多にないって」と呼ぶ者あり）

○三鬼（孝）委員長　　その辺の議論はまた後日をお願いしたいと思います。

（発言する者あり）

○三鬼（孝）委員長　　このオプションの執行部と打ち合わせしながら別働委員会を開いて審議したいと思いますので、その辺、御了承いただきたいと思います。

○奥田委員　　もう一個だけ確認したいんですけど、耐震補強が約6億と、今議論

になっていますけど、エレベーターが3,700万なんですね。今、顧問の田中さんが言われましたけど、仲さんもさっき質問されていましたが、楠さんもされておったかな、水回りとか電気関係、その辺の中のところはまだ詳細がわからないということで、これ、今2億円のオプションがありますけど、最大限どのぐらいのオプション費用というのはかかりそうだと、概算でいいのでわかれば。

○竹中工務店・田中氏　これにさらに給排水とかのインフラの整備を加えれば市庁舎としては完璧なものになると私は思っていますけど、それが今どういう状態なのか、我々、まだ把握していないものですから、それで、今回耐震補強工事のうち、トイレの改修が約4,000万なんですね。実際、これ、耐震補強に本当にかかるお金というのが4億7,000万ぐらいです。それに設計料、それとトイレの改修、それと、耐震改修の中には当然部署の入れかえの引っ越し費用も全部入っていますので、ですから、耐震補強の本当の実質的なものは、4億7,000万よりももっと低いと思います。

○奥田委員　本当に僕は概算でもええので幾らぐらいかかるのかなと、イメージだけ描きたかったんですけど、これ、執行部に言うたほうがいいのかな。僕、前から何回も言うておるんですけど、今回5億9,950万の議決をせなあかんということなんやけれども、全体が幾らかかるか見えない中で、議決するのは非常に気持ち悪いんですよ。それで、市民の方にも説明しにくいんですよ。

今6億円で議決しましたと。幸い竹中さんにも御尽力いただいて、聞いた話ではお安くしていただいたという話も聞いているんですけど、でも、実際、オプションとかいろんなことが今後起こってきて、本来いろんな追加費用がこの57年たった建物でいろんなことがやっぱり出てくると思うんですけど、そうなってくると全体で幾らかかるのと。だったら、前から出ているように建て直したほうがいいんじゃないかとか、分庁方式でやったほうがいいんじゃないかとか、そういう意見があると思うんですけど、だから、全体が見えた上で、執行部、申し訳ない、今回しようがないですけど、やっぱり全体が幾らかかるかということ、特に財政難ですから、財政難なんだから、やっぱり全体が幾らかというのが見えた形で僕らに示してほしいなという気はしますので、それだけお願いしておきますよ、今後のことで。

○三鬼（孝）委員長　今の奥田委員の質疑に対して。

○下村総務課長　最初に申し上げたように、基本設計を今回はやっておりませんので、そういう金額が出ないと。そういったことで財源がなく、有利な起債を活用

する、その起債が期間が決められておるといった中で、急を要して、今回、設計施工というようなプロポーザル方式をとったと。

6億円の金額にいたしましても、松阪市さんがやったやつの床面積を割って、それからの物価上昇等を見て6億円という設定をさせていただきました。大変アバウトではございますが、基本設計をしていない以上、松阪市さんがプロポーザル方式で設計施工でやったという床面積割りを物価上昇を加味して、1.5倍で6億円という数字を出させていただいたというものでございます。

○奥田委員　　そういうことじゃないんですよ、僕は。あなた方が減債・防災事業債の期限が迫っていると。これが32年以降どうなるかというのは、僕は継続していくと思うんやけれども、そういう理由はわかりますよ。だったらもっと早く準備しておくべきであって、差し迫った時期にこういうことを時間がなかったのだでしょうがないでしょうと、基本設計もない中で努力したということと言われたいんだと思うよ。それはそれであなた方は努力されたんだと僕は思います。思いますけれども、今は財政難じゃないですか、財政危機ですよ。僕は貧乏自治体とはいいませんよ。貧乏自治体と言われる方もいらっしゃるんです、この尾鷲でね。

貧乏自治体とは言わないけれども、実はこの財政危機の中で一体これは幾らかかるの、総額。やっぱりそのぐらいはきちっと示した上で、概算でもいいから、今の段階だとわからないですよ、オプションが2億あって、電気回り、水道、水回りのオプションは幾らかかるのか。37年かかって老朽化している、ほかにもいろいろ出てくるかもしれないし。

だから、その辺のところの全体像が見えないと、これ、行き当たりばったりでいいわけじゃないでしょう、市長、この財政危機の中で。だから、きちっとやっぱり市民の方に説明する上で、庁舎の耐震ということ。やっぱり本当に今庁舎の耐震が必要なのかという人もおるし、早くしなさいという人もいるし、ほかのことを先にやってほしいという人もおるし、いろんな人が。そういう中で、やっぱり市民の方に説明する上で、説得力のある説明をせなあかんじゃないですか。だから、一体幾らかかるのと、僕はそこを言っているんですよ。だから、もうちょっと、答弁をちょっと、いつもはぐらかされるんですけども、市長、そこだけ気をつけてください、今後。

○加藤市長　　そもそも今回、要するに耐震補強をしなきゃならない、そういう手順を踏まえて、それじゃ、耐震補強で行きましょうと。さっき総務課長が申し上げたように、いろんな緊急防災のそういう起債を使いながら何とか行こう。まずはや

っぱりこの建物が地震でもって壊れないようにしようというのが最低必要条件なので、その中で全部進めてきたわけなんですね。それをやったときに、どれぐらいかかるのかということについてもある程度の金額をあれしなきゃならないから、松阪市の耐震補強をやった分のどれだけだ、そんな話なんだ。

だから、オプションは後の話なんですよ。これはやったらいいないないという話なんですよ。まず、我々としては、市庁舎を守るがために、耐震補強をする、しなきゃならない、最低必要条件のことをやるということが、要するに皆さん方に御報告させて御了解いただいた6億円なんですよ。だから、その際に対して、排水の、要するに水の話とか電気の配線は出ていました。でも、やっぱりまず耐震補強をやるということ、そのものについては抜きにして考えた、この計画です。

○村田委員　今の奥田さんの話じゃないんですけれども、私は市長の言うことはよくわかるんです。わかるんですけれども、耐震ありきでこの6億円内でやるんだということなんですよ。オプションは別問題として、いわゆる給排水の老朽化とか電気配線の老朽化、こういったものを調査しないと、やっぱり耐震プラスじゃないんですよ。耐震の中に当然これもやっぱり入れておかないと、トイレの改修をしたって、その辺がきちっとなっていないなかったら何もならないじゃないですか、格好だけじゃないですか。

ですから、耐震ということについてはこれはされるんでしょうけれども、やっぱり耐震の工事とともにトイレの改修等もやるわけでしょう、入っているわけでしょう。ですから、トイレの耐震とか改修をやったときに給排水の老朽化をきちっと調べていないと、5億9,950万ですか、これプラス大体のつかみで、給排水、それから電気、電線、こういったものをやると幾らぐらいですという、ざくっとつかみだけでもいいですから、それを示してほしいということもやっぱり私も思いますね。オプションは別なんですよ。オプションは金がなかったらやる必要はないので。でも、給排水の老朽化なんていうのは、これは必然的にやらなきゃいけないでしょう、トイレをさわったら。その辺、どう考えておるんですか。

○下村総務課長　概々算になるとは思うんですが、尾鷲庁舎の給排水を常々修繕いただいているような地元業者の方に概々算で全部取りかえた場合幾らぐらいかかるかということは、お聞きすることは可能かと思えます。

○村田委員　別に執行部を責めるわけじゃないんですけど、6億円を上限で5億9,950万というのは、これはこれでわかるんですよ。わかるんですけれども、これを出してくるときに、プラスこれだけかかりますよということはやっぱり計算

をしておかないと、我々は6億円を上限といいますから当然、何が入っておるかわかりませんが、きょう初めてわかったんですけれども、やっぱり給排水の管の調査もしていないと、電気の調査もしていないということになれば、この5億9,950万というのは私は認めることにはやぶさかでないですけれども、しかし、それはやっぱりついて回るものでしょう。オプションは後でつけるものでしょう。しかし、この建物の耐震をやるにはそこも当然さわらなきゃトイレなんか改修できないわけですから、これはついて回るものですよ。

ですから、その辺だけでも、きちっと金を出さなくてもいいけれども、ざくっとつかみで幾らぐらいでできるんだということをやったりしてほしいんですよ。じゃないと、ごねるわけじゃないですけれども、今定例会で我々は承認するわけでしょう。今定例会ですのに、後の当然ついて回る給排水の老朽化、これの予算も何も見ていないというようなことでは、果たして我々は認めることができるのかなどうかという感じはするんですよ。それについて回りますよと、5億9,950万プラス5,000万なら5,000万かかるんですよということだったら、そういう条件だったら認めようということになりますけれども、それが全然つかまれていないということになれば、ちょっと問題ではないかなと私は思いますね。オプションなんかはほっておきゃええんです、こんなもんは。金がなかったらなくていいんですよ。だけど、給排水は、何回も言うけれども、これは絶対必要ですよ。その辺は竹中さんはどう考えておられるのかな。

○竹中工務店・田中氏　今回の要綱の中でトイレの改修ということがうたわれていたものですから、そこについての縦管とかは、トイレが全部3階まで来ていますのである程度は見ています。ただ、そこまでに至る外に出る配水管とか給水については、特にそこは、今あるものを是としてやっていますので、トータルにはつかめていないんですけど、ここの庁舎で水回りが、特にトイレがメインだと思うんですね。それプラスアルファになると、今4,100万でしたっけ、トイレの改修だけで。プラスはあと何千万かだと思いますね、もし全部取りかえたとしても。

○村田委員　今、田中さん言われたんですけれども、プラス何千万というのは、それを教えてほしいんですよ、大体。

○竹中工務店・田中氏　多分、そんな4,000万もかかる、例えば1,000万とか2,000万の単位だと思います。

○村田委員　それは電気の配線とか全部調査をする。

○竹中工務店・田中氏　いやいや、電気はまた別です。

○村田委員 給排水だけね。

○竹中工務店・田中氏 給排水は、今、トイレがほとんど改修していますので、あとは外に出る配管、それと、あと、引き込みの給水管とか全部取りかえれば。ただ、私、今回、耐震改修プラスチックの改修ということで、特にトイレが市民の方が使うときに非常に古いということで、これをやられたというのはすごくよかったと思うんですけど、例えばこういう電気の設備、特に外の空調、これは今使っているわけですよ。今全部すぐ取りかえるかという、私は別にそれを取りかえなくてもいいと思うんですね。その都度壊れたときに少しずつ設備を更新していくということで、我々のオプションは優先順位をつけますと、エレベーターをバリアフリーのためのつけたらどうかとか、特に外装が、先ほどコンクリートの中性化の話がありましたけど、タイルから水がしみ込んで中の鉄筋をさびさすとか、そういうことで耐震補強プラスそういうことをやられれば、さらにコンクリートの寿命が延びるということで選んだわけです。

それで、先ほどの防水につきましても、どこで漏れているかは特に我々は調査したわけじゃないんですけど、それもやられたほうがこの建物の躯体には健全だということを出させていただきました。

じゃ、電気とか全体のインフラの調査をしろというのでしたら、我々、やらせていただきます。

○三鬼（孝）委員長 村田委員、よろしい。

○村田委員 執行部は電気回りなんかは全然考えていないわけですか。

○下村総務課長 現状復旧、工事に伴って復旧してもらおうという程度でうちは考えています。ただ、庁内LANにつきましても、本来、全部引きかえ予定で予算を組んでおったんですが、今回耐震改修工事があるということで予算を減額補正して、できてから庁内LANを引き回しする予定ではおりました。

○村田委員 ということは、今、田中さんにもお聞きしたけれども、給排水の老朽管施設をやっても1,000万から2,000万までだということなのね、大体つかみで。

○竹中工務店・田中氏 その程度だというふうに私は思っております。実際、まだほかのどこから引き込んでとか、我々は調べていませんけど、トイレの改修のほうはかなり金額が大きいですから、その程度じゃない。どう思いますか、名古屋支店。

○竹中工務店・相川氏 確かにインフラについては、先ほどの話の繰り返しにな

るところがあるんですが、少し確認させていただかないと明確な金額をここで言えと言われても少しちゅうちょするところがございます。

ただ、今回、事務所ビルということですから、市庁舎ということですから、水回りといっても本当にトイレ回りだけでございますから、建物の中の配管系についてはほとんど今回の工事費の中で包含できるというふうにも考えているんですが、ただ、配線ということになった途端に、じゃ、この部屋の照明器具の配線が今どういう状態になっているのかというのを、やはりこれは調べてみないと、ひょっとしたらすぐにでもショートしてしまっているような可能性もあるわけなんです。

繰り返しですが、あくまで設計段階でやはり調査も含めてさせていただいた上で、正確な金額も御報告できるのかなというふうには思うんですが、あくまで提示させていただいているものは手前どもと尾鷲市さんとの中の一つのベンチマークになる金額合意だというところで、その金額を守るべく我々も精査していきたいというふうに考えておりますから、よろしくお願ひしたいというふうに思っております。

○村田委員 結構です。

○野田委員 前回4月に総務課長にお伺いしたんやけれども、4月に尾鷲市役所本庁舎耐震改修事業のプロポーザル応募要領というのは見せてもらったんですけども、その中で、実施設計業務の要件のところ、僕、勘違いしておるのかわからんけど、⑤の6ページのところで、耐震改修工事に伴って発生する関連工事、地盤補強工事、内外装工事、給排水工事、空調工事、電気配線工事、電話配線工事、LAN配線工事等も実施するとなっておるんやけれども、ここら辺は含まれていないんですか。

○下村総務課長 復旧と、工事に伴って移設とかした場合の復旧は必ずしていただきますよということです。

○三鬼（孝）委員長 よろしいですか。

（「なし」と呼ぶ者あり）

○三鬼（孝）委員長 なければ、これで本庁舎の耐震改修工法の技術提案書とオプションメニューの提案の審議を終了いたしたいと思います。

竹中工務店さん、遠路はるばる尾鷲まで来て、提案理由を説明してありがとうございます。今後、工事着工に当たりまして、当然ですけれども安全を第一に、竹中工務店さんの最高の技術をもってすばらしい耐震工事をしていただいて、竹中工務店さんのお話にありましたように、尾鷲らしい建物に生まれ変わったなというような庁舎にさせていただきたいと思いますので、よろしくお願ひいたしたいと思います。

本当に御苦労さんでした。

なければ、これで行政常任委員会を閉じます。

(午後 3時09分 閉会)